



茨城県民間保育協議会
青年部広報誌「礎」
第35号

特集

8.31 特別研修会
茨城県総合福祉会館

「いばらき民間保育園就活応援セミナー」

自分を信じる、 我々は信じてる

— セミナーキャッチコピーより

セミナーを終えて

特別委員会委員長
まつやま大宮保育園
園長 松山圭一郎



多くの皆様のご協力により、無事にいばらき民間保育園就活応援セミナーを8月31日(日)に開催することが出来ました。初めての事業ということで至らない点が多々あったかと存じますが、皆様の温かいご支援に改めて感謝申し上げます。

当日は県内外から約200名の方が参加し、当日の声やアンケート結果を見るかぎり学生にとっても大変有意義なセミナーになってくれたようです。

また、ブースを出して頂いた保育園様からもセミナーを通じて採用に繋がったという嬉しいご報告をいくつも頂くことができました。

このセミナーが出会いとなり、園と学生たちが互いに相互関係を深め、より良い園運営に繋がれば幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



いばらき民間保育園 応援セミナー

セミナーは就活生の為のみにあらず？

県内8校176名、県外9校16名、一般参加者2名を含むのべ15校194名の参加者があり、会場は大変な盛況ぶりを見せました。

保育士や参加園にとっても学生に向けて自園の紹介が出来、また自園の保育を第三者的視点から見直す事が出来るまたとない機会に恵まれました。各園PCからスライドショーで写真を見せたり、自分たちの保育にかける思いを熱弁したり、就活生向けの特別資料を作成するなど、就活生に目を引くようにブースを装飾するなど、様々な方法で就活生に自園の特徴を説明していました。参加した保育士にとっても、自園の保育を人に説明し、学生と意見を交換できる

ても、自園の保育を人に説明し、学生と意見を交換できるのは良い経験になるという事で、得る物があったのは就活生だけではないようです。

実習期間に入ってしまう学校もあつたり、学生の少ない地域もあるなど、地域差や時期的な問題もあり、今回のセミナーから得る課題も多く見受けられましたが、多数の学生から参加園の見学申し込みがあり、保育園と就活生のすばらしいマッチングの場であったのではないのでしょうか。

パネルディスカッション 「先輩保育者と本音を語ろう」

新人、経験豊かな保育士、様々な視点から助言

就活や、実習で不安を抱く学生に保育の現場で活躍する保育士の本音を聞いてもらい、保育の現場に親近感を持ってもらいたいという思いもあり、特別委員会松山委員長がコーディネーターを務めました。新人と経験豊かな保育士の2名ずつに参加して頂き、働き始めた時の不安や就活の経験談を語って頂きました。人間関係の不安や保育をする際に心がけている事など、具体的な話を聞き学生達も就職園を選ぶ際の参考になったそうです。



学生も生の声が聞けるとあって物怖じせずに質問しています。



講演

「我武者羅応援団」

がむしゃらおうえんだん

熱いメッセージで学生を応援

昨年の私立保育園連盟青年会議茨城大会にて、好評だった我武者羅応援団（がむしゃらおうえんだん）を本年もお願いして、学生に向けて応援メッセージを頂きました。

当セミナーのテーマである、「自分を信じる、我々は信じてる」という言葉は、この我武者羅応援団の台詞であり、これから期待と不安を交えて就活に臨む学生へのメッセージでもあります。

当初は、その姿の異様さに学生からもどよめきが起こっていましたが、すぐに大きな笑い声に変わり、団長の魂のこもった独唱メッセージには感動し、涙を流している学生も見られました。アンケートの方でもかなりの反響があり、「めちゃくちゃ心に響きました」「疲れて諦めていた自分にもう一度スイッチが入りました！」「自分を信じて頑張ります！」「やる気になった、全力で頑張る」学生からも熱量のこもったメッセージを頂きました。

応援！？
生と一緒に

押忍！



青年部神戸視察研修会 11月17日~19日

神戸市役所 / 地域子育て支援センター「あーち」視察

神戸市役所にて神戸市の地域子育て支援センターの事業報告と市内大学との子育て支援事業の連携について説明をうけました。神戸市の支援センターは公立の保育所が区役所を中心にして事業を展開し、民間の保育所は市内160園ある内の2ヶ所だけが支援センターを委託されています。区役所が中心となって事業を進めていくメリットとして区のさまざまな部署との連携がしやすいとのことでした（保健師さんやこども家庭局など）。支援事業の中で変わった取組として体験保育（親子ふれあい遊び）事業もありました。この事業は親子で保育所を体験し子どもの発達を確認したり、理解し、子育てに見通しを持つのが目的です。昨年度は3000組が利用されました。

また、保育体験型親支援事業なども行なっています。この事業は子育てに不安を抱く保護者の方に保育所で同年齢子ども達の様子を見ることで子育ての不安や悩みの解消につなげているようです。市内大学と連携した子育て支援事業についても説明をうけました。大学との事業連携は平成19年度よりスタートし現在6大学と連携して子育て支援事業を展開しています。

その後、神戸大学が運営するのびやかスペース「あーち」を見学に行きました。あーちは年間利用者数が延べ（親子）3万人1日利用平均120組の利用があります。活動スペースとして、こらぼあーち・あーとあーち・ふらっとあーちがありそれぞれに月予定がありさまざまな活動が行われています。

また、利用者も就学前のお子さんと保護者の方対象の「およこ会員」・小学生と中学生が対象の「こども会員」15歳以上（ボランティアの方も含む）が対象の「おとな会員」があり、その他に障害者の方も利用されており、さまざまな方がいらっしゃいます。さらに知識や経験が豊富なボランティアの方がサポートしてくれています。

今回視察をさせていただいた支援センター「あーち」は地域社会に貢献できる、新たな形ではないでしょうか。

こぼと保育園 安藤 伸康
アリス保育園 卯木 真哉



はっと保育園視察

11月19日神戸市灘区のはっと保育園さんに青年部視察研修で見学に向った。

まず目に留まったのは、保育士の先生達が全員耳にイヤホンを着けており、時折ピンマイクで話している。後の園長先生のお話では、インカムを使うことによって、よりキメの細かい保育が出来る、今では手放せない、との事。この様なやり方もあるのか、と関心をもった。

二班に分かれて園内を見学させてもらった。興味深かったのは、3,4,5歳児が同じ空間で遊んでいて、各コーナーによって、お絵描き、ブロック、絵本等に分かれて、それぞれが好きなコーナーで活動している。部屋の中央には、各コーナーの見取り図と子ども達の名前が書いてあるマグネットが置いてあり、自分で遊びたいコーナーの所に自分のマグネットを貼り、また違うコーナーへ行く時は、自分のマグネットを次に行くコーナーの場所に貼り直している。子ども達の間関係や、自分で考える力を持たせるためだ。確かに遊んでいる子ども達はみな思い思いのコーナーで楽しそうに遊んでいた。

その後、園長の片山先生を囲み過去の苦労されたエピソードや、片山先生の保育観など様々なお話を聴く事が出来た。片山先生のお話で印象に残っているのは、「例えば子ども達がやる組体操。完成した姿だけに目が行ってしまいがちだが、組体操が完成するまでの子ども達の過程を大切にすることが本来の保育」まさにその通りだと思う。

午前中のお忙しい時間の中、はっと保育園片山園長先生はじめ職員の皆様ありがとうございました。また、今回の神戸市視察研修を企画、運営して下さいました青年部の研修委員会の皆様ありがとうございました。

泉ヶ丘保育園 渡辺 謙



平成26年12月発行
茨城民間保育協議会青年部広報委員会

委員長 さしま保育園 中川祐一
副委員長 しらはね保育園 田尻育子
真壁保育園 長谷川夏生

編集委員 旭保育園 朝倉涼二
玉里保育園 戸田見良
とりのす保育園 藤枝明人

中央保育園 香取秀聡
はくろ保育園 柴山俊行
大宮聖感保育園 後藤貴哉